

## 令和元年度第3回生野区区政会議こども未来部会

### 1 開催日時

令和2年1月21日（火） 19時00分～20時45分

### 2 開催場所

生野区役所6階604・605会議室

### 3 出席者

（区政会議委員）10名

船方委員、永田委員、池原委員、米川委員、山崎委員、榎木委員、大藤委員、伊藤（廣）委員、林委員、金委員

（区PTA協議会）2名

新井会長、緒方副会長

（関係者）1名

田中（晃）委員

（オブザーバー）1名

塚本委員

（生野区役所）11名

山口生野区長、櫻井副区長、橋本企画総務課長、清水区政推進担当課長、井平安心まちづくり担当課長、山崎地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長、杉本まちづくり推進担当課長、山口保健福祉課長、山戸地域福祉推進担当課長兼政策推進担当課長、大川教育委員会事務局総務部学校適正配置担当課長兼地域活性化担当課長、樋口教育委員会事務局総務部首席指導主事兼こども未来担当課長

### 4 委員に意見を求めた事項

（1）令和2年度の生野区の実施計画（素案）について

資料1 令和2年度生野区の実施計画（素案）：こどもの未来部会用抜粋分

参考資料1 令和2年度生野区運営方針（素案）：こどもの未来部会用抜粋分

参考資料2 事前にいただいたご意見と区の実施計画

（2）その他

参考資料3 前回の部会でいただいたご意見一覧

参考資料 生野区西部地域の学校跡地を核としたまちづくり構想（概要版）

## 5 会議内容

### ○橋本企画総務課長

皆様、本日はお忙しい時間帯にもかかわらず、ご出席をいただきまして、ありがとうございます。定刻がまいりましたので、令和元年度第3回生野区区政会議こどもの未来部会を始めさせていただきます。私、事務局の生野区役所企画総務課長の橋本でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。以降着座にて進めさせていただきます。

会議の開催の前に、本日の出席状況についてご報告をさせていただきます。本日の会議は委員定数10名に対して10名のご出席があり、定数の2分の1以上の出席にて有効に成立をいたしております。また、本日の傍聴者はゼロ名となっております。

なお、当部会については、地域により身近な区役所が学校運営の支援や学校・地域ニーズに合った具体的な取組みを推進していく分権型教育行政における保護者・区民の皆様の多様な意見、ニーズをくみ取るための会議としての役割も担っていただいております。本日関係者といたしまして区PTA協議会から新井会長、緒方副会長の2名の方にご参加をいただいております。

次に、前回の区政会議、所用にてご欠席をされておりましたこどもの未来部会の学識委員であります金委員をご紹介します。一言ご挨拶をお願いいたします。

### ○金委員

皆様、こんばんは。初めまして、金相文と申します。貴重な時間ですが、ちょっと最初にご挨拶させていただきます。

全体会議のほうを欠席するというご迷惑をおかけしました。申しわけありません。できる限り、自分の果たせる役割を果たさせていただこうということで、こうして参加させていただきました。

私は、ずっと祖父母から孫まで生野区の在住ですので69年間生野区にいましたし、大阪市の教員を32年しておりましたので、こども未来部会に何かお役に立てることがあればと思って委員をさせていただきます。今日の進行のほうもさせていただきますが、また後ほどどうぞよろしくお願ひします。

### ○橋本企画総務課長

ありがとうございました。また前回の区政会議の全体会議を所用でご欠席をされておまして本日こどもの未来部会、ご出席をいただいております山崎委員でございます。ご紹介だけさせていただきます。

### ○山崎委員

よろしくお願ひします。

### ○橋本企画総務課長

また、本日の会議には区政会議全体のコーディネーター役をお願いいたしております近畿大学の田中委員にも関係者としてご出席をいただいております。

次に、オブザーバーについてご報告させていただきます。本日の会議にはくらしの安全・安心部会から1名、塚本委員にご参加をいただいております。なお、オ

ブザーの方につきましては、部会長から求めがあった場合にのみご発言いただけることとなっておりますので、よろしくお願いいたします。

また、区政会議に関する本市の規則によりまして、出席をいただきました方のお名前、発言内容等が公開をされます。事務局において会議録を作成いたしまして、後日区役所のホームページ等で公開させていただきますので、録音や撮影についてご了解のほどをお願い申し上げます。

次に、本日の区政会議の趣旨と配付資料についてご説明をさせていただきます。本日のこどもの未来部会では、主に生野区の来年度の子育て支援や教育分野の取組みについて委員の皆様、関係者の皆様にご意見やご議論をいただきたいと考えております。

本日の会議でいただきましたご意見は、後日、資料に整理いたしまして、全体会議の場で部会から報告をいただき、全ての委員の皆様にご共有をさせていただきます。

次に、本日の資料についてご説明を申し上げます。令和元年度第3回生野区区政会議こどもの未来部会の次第をご覧ください。本日の会議資料を記載しております。資料がおそろいでない場合は、お手を上げていただければ、事務局からお持ちいたします。よろしくお願いいたします。

まず資料1といたしまして、令和2年度生野区の取組み(素案)、こどもの未来部会抜粋分というA4横のパワーポイントの資料がございます。こちらは皆様に事前に送付させていただいている資料となっております。

次に、資料1の補足資料といたしまして1月15日に開催されました大阪市総合教育会議で示された学校配置の適正化の今後の進め方についてというA4横のパワーポイントの資料がございます。

次に、資料1の参考資料1としまして、A4縦の資料で11月5日から公表しております令和2年度生野区運営方針(素案)のうち、こどもの未来部会の抜粋分を本日配付させていただいております。

次に、参考資料2といたしまして、本日の部会にて事前にいただいたご意見と区の方考え方を配付させていただいております。

次に、参考資料3として、これまでの区政会議のこどもの未来部会でいただいたご意見の一覧を配付させていただいております。

次に、資料番号はございませんが、参考資料といたしまして、生野中学校区義務教育学校開校に向けた説明会及び田島中学校区小中一貫校開校に向けた説明会という両面の一枚物のチラシをつけさせていただいております。

次に、生野区の西部地域の学校跡地を核としたまちづくり構想概要版の資料をつけさせていただいております。

さらに、3月1日に開催いたしますみんなの学校2020春SCHOOL OF LIFEのチラシを配付させていただいております。資料は以上となります。資料がおそろいでない場合は、お手を上げていただきお知らせください。よろしいでしょうか。

それでは、事務局からの報告は以上でございます。それでは、これからの議事進行につきましては、大藤部会長によりしくお願いいたします。

○大藤部会長

皆さん、こんばんは。部会長の大藤です。どうぞよろしくお願ひいたします。ここからは、座らせていただきます。

ただいまから令和元年度第3回こどもの未来部会を開催します。区政会議は、地域でまちづくり活動を実際に進めている私たちが区役所と一緒に意見を出せる場となっています。部会が出された意見は全体会議において報告し、共有することとなります。その中でこの部会は生野区のこども子育ての分野について有効で活発な議論が行えるように意見交換を進めていきますので、皆様、よろしくお願ひします。

また、先ほどの事務局からの報告でもありましたように、本日の会議には区政会議全体のコーディネイト役を担っていただいている近畿大学の田中委員にもご出席いただいておりますので、意見交換の場でご助言などをいただければと思っております。どうぞよろしくお願ひします。

それでは、開催にあたりまして、山口区長からご挨拶をお願ひします。

#### ○山口区長

皆さん、こんばんは。お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。また金委員、ありがとうございます。

このこどもの未来部会、来年度生野区がどういった取組みをするのかのご説明、また学校再編の話だったりいろんなテーマがありますけれども、一旦説明を聞いていただいて、またそれぞれのご意見を言っていただければと思います。

1つだけ、ちょっと私から、昨日生野区には実は8校、高校生にあたる年代のこどもが通う学校があります。勝山高校、桃谷高校、そして市立の生野工業高校、金光藤蔭、私立ですね、プール学院、それから偕星高校、あと大阪コンピューター高等専修学校といたしまして、高卒資格が取れる学校が桃谷にあります、こちらとあと生野支援学校の高等部、全8校の先生たちが初めて1人、2人来ていただいて集まって情報交換をしました。

生野の子が全員通っているわけではないんですけれども、3割ぐらい生野区の子がいるよとか、いろんなことを情報交換する中で、やっぱり出たのがスマホのオンラインゲームで夜の3時とかに集合して、ネット上ですよ、集合してそこから4時、5時までゲームして、それで寝ないで学校に来て寝ているとか、やっぱり拡散したらあかんものを撮ってアップしてしまったりとかというトラブルは本当に絶えないんだという話を高校の先生方が情報交換をしております、それを高校生からいろいろと言う、ルールをどうこうと言うよりも、やっぱり中学校、小学校、また小さいうちから、もうあるのは大前提で、私、条例とかはナンセンスやなと思っております、あるゲームとか、そういうもの、身の回りにはもう大前提として、使いこなすとか、自分でコントロールするとか、家庭でどんな話し合いをして、どんな約束をするみたいなことを、まち全体でかなりやっていかないかんのやなということ、昨日は実感しましたので、情報提供をさせていただきました。

今日は、またそんないろんなテーマもあると思いますけれども、妊娠期から、そして赤ちゃんが生まれ幼児になり、保育園に入ったり幼稚園に入ったり、小学校、中学校、高校と18歳になるぐらいまで、どうやって生野のこどもたちを育ていき、

またできるだけ全ての子が可能性を開かすことができるようなまちにできるかという話について、いろんな形でご意見いただければと思います。どうぞよろしく願いいたします。

○大藤部会長

ありがとうございました。それでは議事に入りたいと思いますが、会議の円滑な運営に資するために、ここからは学識委員の金委員に会議の進行等をお願いしたいと思います。金委員、よろしく願いします。

○金委員

ただいま部会長からご指名いただきました金です。私のほうから会議の進行をさせていただきますので皆様、よろしく願いします。

それでは、議事の1つ目で、お手元の会議次第に沿いまして、議事1令和2年度生野区の取組みについて、区役所のほうからご説明のほうお願い申し上げます。

○山戸地域福祉推進担当課長兼政策推進担当課長

皆さん、こんばんは。地域福祉推進担当課長の山戸でございます。私からは1-1子育てが楽しくなるまちづくりについてご説明させていただきます。着座にて失礼いたします。

6ページをお開きください。現状・課題につきましては、区内の人口は減少傾向にあり少子高齢化、核家族化は引き続き進行しています。また子育て世代を取り巻く環境も地域社会でのコミュニケーションが減り、育児不安やストレスについて相談できる相手がおらず、孤立するという状況に陥りがちです。そのような状況を少しでも改善し、安心して子どもを産み育てることができる環境づくりが必要です。

具体的な取組みといたしましては、こどもの保護者等へさまざまな子育て情報や交流の場を提供し、子育ての孤立化を防ぎます。子育て応援イベント「いくのっ子広場」は、子育てをサポートしようと活動している施設や団体、民生委員、主任児童委員さんが協働し、子育て応援イベントを開催いたします。

次の生きるチカラを育む絵本プロジェクトにつきましては、絵本サポーターによる絵本の読み聞かせを平成29年度より3カ月児健診時にブックスタート事業の実施と合わせて行うとともに、平成30年9月からは1歳6カ月児健診時においても実施することといたしました。また、家庭での絵本の読み聞かせをお勧めし、つどいの広場等の子育て支援機関の利用促進を図るため、子育て支援機関とともに絵本日記を作成いたします。引き続き絵本サポーターの育成にも取り組んでまいります。

次の7ページをご覧ください。子育てに関する効果的な情報提供についてでございますが、区ホームページや平成29年11月に開設いたしました子ども・子育てプラザの子育て情報サイト“いくのde育～の”を活用して地域の子育て支援情報などを効果的に届けますとともに、区長によるいくみん子育て通信や区内子育て支援機関との協働で「にこにこいくのっこだより」を発行し、子育て中の方々にさまざまなイベントや交流の場等、多彩な子育て情報を発信しております。また子育て世代以外の方々にもさまざまな子育て支援のメニューがあることを広く知っていただけるよう、より情報発信を強化し、取組みを進めてまいります。

今年度の業績目標といたしましては、子育て応援イベント「いくのっ子広場」に

ご参加いただいた90%以上の方に子育ての参考になったなど肯定的な評価をいただけるよう取組んでまいります。子育てに関する効果的な情報提供では、生野区子育て情報サイト“いくのde育への”のアクセス数、年間1万件以上を目標といたします。また子育て支援機関で子育て支援メニューや研修情報などを共有する生野区子ども地域包括ケアシステムを構築し、子ども・子育てプラザをはじめ、NPO団体を含む関係機関や施設、区役所等をつなぎ子育て支援の情報を共有しやすくし、連携、協力を強めてまいります。

また、来る3月3日の月曜日午後3時よりリゲッタIKUNOホールにおきまして、生野区まちぐるみ子育て宣言シンポジウムを開催いたします。この宣言は、子どもが笑顔で暮らせるまちを目指し発表するもので、まちぐるみ、子育てについて考えるシンポジウムをあわせて開催いたします。1月29日に報道発表いたしまして、2月の広報紙に掲載いたしてまいります。1人でも多くの区民の皆様にご参加いただき、みんなで子育てするまちのスタートを切ってまいりたいと思います。

今後とも子育て応援イベントなど、子育てがより楽しくなるように取組み、生野区のまちで子育てをしたくなるような積極的な楽しい情報を発信してまいります。以上でございます。

○山崎地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長

続きまして、私、生野区役所地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長をさせていただきます山崎です。続きまして、8ページ以降、2-1の「次世代の学校づくり」からにつきまして、私のほうから説明させていただきます。着座して説明させていただきます。

それでは、まず資料の8ページのほうをご覧くださいと思います。生野区の西部地域の学校再編ということで、こちらにつきましては、先日の区政会議全体会の際にもお話させていただきましたけれども、この間の児童生徒数の減少を踏まえまして、小中学校の小規模化、特に1学年1クラスとなっている状況を解消すべく、資料のほうにも図で入れさせていただきますけれども、生野区の西部地域の学校再編の計画ということで策定させていただき、取組みのほうを進めさせていただいているところでございます。来年度の業績目標としましては、学校名でありましたり、通学路の安全対策などにつきまして、新たな学校の具体的な内容について議論する場となります学校設置協議会を4つの中学校区で設置するというところとしておりまして、現在の進捗状況ということで資料の9ページのほうに記載させていただいているところでございます。

しかしながら、この学校再編に関しまして、既に新聞等でも報道されておりました、皆様もお聞き及びのところもあるかと思っておりますけれども、先週の水曜日、1月15日の日に市長と教育委員の皆様方が教育行政に関して意見交換を行う場というふうになっております総合教育会議ということでこの学校再編について議論がなされておりました、新たな動きが出ているというような状況になっております。この点につきまして、ちょっとご説明させていただきたいと思っております。

資料のほうなんですけれども、資料番号入っておりませんが、1月15日の総合教育会議資料抜粋というもので右上につけさせていただいております。学校配

置の適正化の今後の進め方についてと書かれている資料のほうをご覧いただきたいと思ひます。こちらの資料ですけれども、先ほど申し上げました総合教育会議の場で配付された資料の一部を抜粋したというものになってござひます。

大阪市におきましては、生野区に限らず、ほかの区におきましても、学校の小規模化というようないことが進んでいるような状況です。これに伴ひまして、こどもの教育環境改善ということを考えていかないといけないということ、学校再編の取組みについて、この資料の中では学校配置の適正化というふうに書かれておりますけれども、こちらのほうが課題というふうになっておるところでござひます。こういった背景で1月15日の総合教育会議の場において議論が行われておりまして、大きく2点の方針が確認されたということになっているところとござひます。

まず、1点目ですけれども、資料の2ページのほうをご覧いただきたいと思ひます。いろいろ書いておるところでござひますけれども、端的に申し上げますと、大阪市全体の方針として、学校再編、学校配置の適正化のための基本方針を条例に規定することなどによりまして、定めていこうということが方針として決定されておるところでござひます。

これまで学校再編、学校配置の適正化につきましては、その進め方など一定の考え方が指針ということを示されていたところとござひます。しかしながら、生野区のように大規模な再編になるということになりますと、例えばどの学校を残すべきかなど、意見がまとまりにくいといったこと、またそもそも学校再編の議論をしていかないといけないという状況にあるにもかかわらず、その話し合いすら始まっていないというようないところもあるといった課題も指摘されておったところとござひます。

こういったことを背景にこの間、教育委員会におきまして、さまざまな協議が行われておりまして、今後の少子化に対応し、学校現場が質の高い教育活動を継続的、持続的に行うためには、学校配置の適正化を円滑に進めていくことが必要であり、そのために大阪市全体でのルールとして学校配置の適正化のための基本方針を定めていくということが確認されておるところとござひます。

その基本方針の主な内容としましては、資料の上のほうに学校適正配置対象校ということと書かれておりますけれども、簡単に申し上げますと、1学年1クラスの学年がある学校ということになるんですけれども、全ての学校適正配置対象校について、例えば学校の場所でありましたり、再編の時期、それからスケジュールなどを定めた学校再編整備計画を保護者等の学校関係者の意見を聞きながら行政の責任で策定し、公表するというような内容になってござひます。

また、この学校再編整備計画につきましては、学校関係者、地域住民の意見を聞くために学校設置協議会等を設置するなどといった内容が盛り込まれておる状況になってござひます。この基本方針の策定を通じまして、学校の再編による児童生徒の教育環境の改善という目標をみんなで共有し、保護者、地域住民の理解と協力のもと、話し合いを行って円滑な学校配置の適正化を進めていきたいという議論がなされておるところとござひます。

続きまして、先ほど大きく2点が確認されたというお話をさせていただきました

けれども、2点目としまして、資料の3ページをご覧くださいと思います。こちらは、まさに生野区の話になってございまして、生野中学校区と田島中学校区の学校再編について議論されたところとなっております。

この間、数年間かけまして、両中学校区の学校再編について議論のほうを行ってきたところでございますけれども、この総合教育会議におきましては、児童の教育環境改善ということ踏まえれば、先送りにできない状況であるということも踏まえまして、資料の真ん中あたりに囲みで書かせていただいておりますけれども、生野中学校区、それから田島中学校区の再編の方針ということでこのような形で方針を決定しまして、学校設置協議会を設置の上、地域、保護者の参加も得まして、話し合いを進めていくという方針が確認されておるところでございます。

具体的に申し上げますと、まず左側に書かれております生野中学校区の再編につきましては、(1)に書いております再編対象とする学校は、生野中学校、それから林寺小学校、それから生野小学校、舍利寺小学校の生野中学校を進学先とする地域、それから西生野小学校、これらの学校を再編の対象としまして、それから(2)に書いております生野中学校並びに西生野小学校の校地を活用しまして、それから(3)に書いております令和4年4月1日に新しい学校を開校していくと、それから(5)のその他のところに書いておりますこの新しく開校する学校につきましては、義務教育学校ということで、小学校と中学校が一体となった学校という新しい学校になるんですけれども、義務教育学校として開校していくという方針が決定されておるところでございます。

また、田島中学校区の再編につきましては、再編対象とする学校としましては、田島小学校と生野南小学校を対象とし、場所につきましては、田島中学校の校地を活用して、また時期としましては、令和4年4月1日に施設一体型小中一貫校として開校するという方針が決定されておるところでございます。

なお、それぞれの中学校で新しくつくってまいります学校の目指す教育としまして、資料4ページ、それから資料5ページに記載されておりますので、またご覧いただけたらと思っております。

今申しました大きな2点の方針がこの総合教育会議の場で確認されたということになってございまして、特に生野中学校区、田島中学校区の学校再編につきましては、本日資料ということでチラシのほうをお配りさせていただいておりますけれども、それぞれの小学校区におきまして、説明会を開催させていただきまして、保護者の方、それから地域の方にご説明させていただき、また疑問にもお答えしていきたいと考えておるところでございます。

この学校再編につきましては、これからの子どもたちの教育環境をよりよいものにしていくという思いで進めておるところでございます。一方で、やはり通学面での不安、それから避難所がなくなるのではないかとといった不安、また地域のにぎわいがなくなってしまうのではないかと不安のほうもお聞きしておるところでございます。また引き続き保護者、地域の皆様に丁寧にご説明申し上げまして、これらの不安も解消しながら取組みのほうを進めていきたいというふうに考えておるところでございます。

それでは、すみません、何度も戻って申しわけございません。資料1のほうにお戻りいただきたいと思えます。続きまして、10ページをご覧ください。「次世代の学校づくり（学校配置の見直し）」ということで、学校跡地を核としたまちづくりの取組みについてご説明させていただきます。

ただいま、学校再編の取組みにつきましてご説明させていただきましたけれども、この取組みに伴い閉校することになる学校の跡地を地域の防災拠点として残すということをお前提にしながら単に防災拠点として残すだけではなくて、まちの活性化に寄与するような、そういうふうな有効な跡地活用方策を考えていこうということで検討しておるところでございます。

今後の方向性というふうにお書かせていただいておりますけれども、昨年の6月には跡地活用の基本構想となります「生野区西部地域の学校跡地を核としたまちづくり構想」を策定しまして、この構想をもとに小学校ごとの校舎と校地の具体的な活用運営計画を策定することとしております。この策定につきましては、小学校ごとに学校跡地検討会議を設置しまして地域・事業者ニーズ等のご意見もお聞きしながらみんなの学校というコンセプトのもと持続可能な跡地運営を目指して検討を進めてまいりたいと考えております。

次のページをご覧ください。11ページには、取組みの進捗状況ということで記載させていただきます。昨年度、平成30年度でございますけれども、6回にわたりまして、区民の皆様方に跡地活用についての理解、認識を深めてもらうということをお目的としまして、再生まちづくり講演会ということで開催させていただきましたほか、翌31年の2月にはまちづくり構想をお示しするリノベーションまちづくりフォーラムを開催したところでございます。

その後、パブリックコメントを経まして、先ほど申し上げました6月に生野区西部地域の学校跡地を核としたまちづくり構想ということで策定をさせていただきます。また9月にはみんなの学校会議ということで、ワークショップ形式で広く跡地活用のアイデアをいただくイベントを、また11月には参画エントリー会議ということで、跡地活用について、より具体的な活用を提案いただくイベントということで開催させていただきます。活用につきまして、さまざまな可能性やアイデアをいただいたということになってございます。現在は、生野小学校及び御幸森小学校に学校跡地検討会議を設置いたしまして、活用のあり方について検討し、跡地活用のプラン策定など、事業者公募に向けての議論を進めているところでございます。

また、先ほどチラシを入れさせていただきますとお話させていただきました、今年の3月1日、みんなの学校SCHOOL OF LIFEというイベントのほうもさせていただきますと考えております。こちらのほうは、学校跡地がどういう使い方になるのかちょっとわかりにくいという声もよくお聞きします。どういう雰囲気になるのか、どういう感じになるのかということも皆様方にイメージしていただけるような形で取組んでまいりたいと考えております。お時間あるようでしたら、ぜひともご来場いただけたらと思っております。

また、こちらの学校跡地の検討につきまして、次年度以降も引き続き学校再編の

進捗に応じまして、地域の活性化につながるような形で各学校の跡地活用について検討を進めてまいりたいと考えております。

続きまして、資料の12ページをご覧くださいと思います。こちらは2-2ということで「次世代の学校づくり（「生野の教育」の実現）」についてということで、以下4つの取組みについてご説明させていただきたいと思います。

まず、12ページでございますけれども、生きるチカラを育む課外授業についてご説明させていただきたいと思います。こちらのほうですけれども、過去にございました大阪市の子どもたちの生活に関する実態調査という調査がございましたけれども、この調査結果を受けまして、生野区におきましては、基礎学力でありましたり、学習習慣が定着していない中学生が多いということ、また経済的な理由で子どもに学習機会を与えにくい保護者の存在もあるということがわかりまして、それらを課題としてとらえまして、子どもたちに学習機会を提供し、自ら学ぶ力を身につけてもらう必要があるということから、この生きるチカラを育む課外授業ということで、平成29年度から実施しております。

この授業ですけれども、お子さん自らが通っている中学校におきまして、比較的年齢の近い大学生などを講師とした学習支援を行っていただくとともに、悩み相談の場も設けまして、将来の夢や進路について、お子さんが具体的に考えていけるように支援し、自らが描く将来像の実現に向けて、自ら学ぶ力をつけていくことを目指して進めておるところでございます。この授業なんですけれども、受講料というものが発生するんですけれども、こちらにつきましては、大阪府で実施しております塾代助成事業というものがございます。こちらを活用することによって、保護者の所得によっては、実質無料で受講できるように経済的な負担の軽減も図るということで取組みを進めておるところでございます。令和元年度、今年度でございますけれども、資料に記載させていただいている大池中学校、東生野中学校、田島中学校、新生野中学校の4校を会場としまして授業を実施しております。来年度につきましても、引き続き同じく4校で実施していくということで予定しております。

続きまして、13ページをご覧ください。こちらのほうは、生きるチカラまなびサポート事業ということでございまして、ただいま説明申し上げました生きるチカラを育む課外授業と同様に、子どもたちが自らの力で未来を切り開く力を身につけることができるように支援するというを目的に実施しております。学校で実施しておりますキャリア教育でありましたり、性・生教育、こちらのほうを行うにあたりまして、外部講師として支援できる人材をサポート者として登録する制度を設けまして、各学校に派遣するという事業になっておりまして、今年度実施しているところがございますけれども、来年度につきましても、引き続き実施してまいるということを予定しております。こちらの事業ですけれども、学校現場にもっともっと使っていただけるように、引き続き講座数を増やすなど、より使いやすいカリキュラムづくりに取り組んでまいりたいと考えてございます。

資料をおめくりいただきまして、14ページをご覧ください。こちらは民間事業者等を活用した課外授業『いくの塾』ということでございます。先ほどご説明申し上げ

げました生きるチカラを育む課外授業と合わせて塾代助成事業の利用が可能な塾事業として、平成29年度から実施しているものでございます。先ほどの授業は、学習習慣をつけるというところと悩み相談を並行してお子さんの自尊感情を高めていく、将来の目標づくりに支援するというようなこともやっておりますけれども、こちらの授業につきましては、学習指導ということに特化した内容となっております。現在実施しておるのは、3つの拠点会場ということで生野中学校、巽中学校、それから生野区民センターを会場としまして、区内在住の市立中学校に通われる生徒さんでしたら、誰でも受講可能な制度になってございます。来年度につきましても、引き続きこの3つの拠点会場におきまして実施してまいりたいと考えております。

続きまして、資料15ページをご覧くださいと思います。次は、学び支援事業ということで、この事業はお子さんの学力状況の把握でありましたり、自主学習習慣の確立、また学力・体力の向上に資することを目指しまして、模擬検定などの外部試験を学校において活用する機会を提供すべく区で費用を負担しまして、例えば日本語検定でありましたり、英検ジュニア、それから標準学力調査といったものが多く使われておりますけれども、そういった模擬検定等を受けていただくということを行っております。今年度につきましても、区内19の小学校あるんですけども、15の小学校で利用いただく予定となっております。校長先生からも継続して実施してほしいという声もいただいております。来年度につきましても、引き続き実施してまいりたいと考えております。

資料をおめくりいただきまして、16ページ、「(2-3)次世代の学校づくり、(学校・教育コミュニティ支援)」ということで、小・中学校交流かけはし事業につきましてもご説明させていただきます。こちらの事業なんですけれども、小学生が中学校に上がったときの生活、中学校生活を楽しく過ごすためにスムーズに移行できるように、また先生同士の連携を深める、高めるなどの効果を見据えまして、中学校とその校区の小学校の交流する取組みを区役所として支援していくという事業になってございます。

具体的には、小学生が中学校の部活動でありましたり、授業を体験するというような活動、また英語の授業を同じ中学校区の小学校のお子さん同士と一緒に受けたりするというお子さん同士の交流のほか、小・中学校の教員合同研修などの取組みが行われているようになってございます。来年度につきましても、引き続き区内全8中学校区に対しての支援を行ってまいりまして、また年間を通しての継続的な事業でありましたり、教員間の交流なども取組めるように支援してまいりたいと考えております。私からの説明は以上でございます。

#### ○井平安心まちづくり担当課長

皆さん、こんばんは。安心まちづくり担当課長、井平でございます。よろしくお願ひいたします。私からは資料の17ページ、まちの教育力を上げる、生涯学習の推進についてご説明させていただきます。座らせていただきます。

区内の19の小学校に生涯学習ルームを開設しまして、区民の生涯学習活動の場を提供しております。また生涯学習ルームフェスティバルなどのイベントにおいて、学びの成果を発表していただいております。引き続き生涯学習推進

員連絡調整会議の場を生かしまして、生涯学習推進員との連携を強化し、地域行事等で学びの成果を還元できるよう支援しまして、こどもが地域の大人から学ぶことで地域における多世代交流を促進してまいりたいと考えております。説明のほうは以上でございます。

○金委員

そしたら、区役所のほうからの説明、以上ということでもよろしいですか。ただいま説明がありました、まず子育てが楽しくなるまちづくり、次世代の学校づくり、そして最後に今おっしゃられたまちの教育力を上げる、3点の報告がありました。このことにつきまして、委員の皆様、何かご意見、ご質問等ありましたら、ご発言いただきたらと思っています。ただ、発言の際に挙手をしていただいて、お名前のほうを述べていただきますようお願いいたします。どなたか、たくさんあったと思うんですが。なかなか説明が具体的でしたので。船方委員。

○船方委員

北鶴橋の船方と申します。お世話になります。今、ちょっと説明を聞いていたら、今回から初めて区政会議のほうに入らせていただいて、それまでの経緯とかわからないので、よく把握できないところがあったんですけども、中学校の再編のところで生野中学校と田島中学校の再編のところで、同じ小中一貫校であるけれども、1つは義務教育学校で、1つは施設一体型小中一貫校という形になっているんですけども、これはその校区内で設置された委員会の中で、皆さんそういうふうな方向で決められて決まったのかどうか、同じ生野区の中で2つの体制というか、というのができて、去年4月には桃谷中学校が開校していますけれども、そのときは特に多分小中一貫校の話と違って、私の耳には入ってこなかったんですけども、どういった形でこんなふうな体制というか、決まったのか教えていただけたらなと思ったんですけども。

○金委員

山崎さん、お願いします。

○山崎地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長

ありがとうございます。まず生野区西部地域の再編整備計画ということで、我々考えましたのは、お子さんが少なくなってきた、1学年、複数学級になるような形で再編ということで考えていますけれども、単に数合わせでくっつけるだけということとはしたくないなという思いがありました。そういった中で、こどもさんにとってよりよい形にしていきたいという中で、1つの柱としまして、今まで小学校と中学校、一応学校としては別々になりますんですけども、9年間でお子さんをどういうふうに育てていくのかという一本筋が通った考え方を持つという観点で、小中一貫した教育ということを行っていきたいというのが1つの柱ということで話をさせていただきました。

先ほどお話にございました勝山中学校と鶴橋中学校の話のときに、そのあたりのお話をあまり聞いていないということをお話いただいたんですけども、その中学校の再編の部分に関しましては、本当に中学校をよくするという観点でやっています、もともとは小学校の再編と中学校の再編を一緒にやって小中一貫した教育を

つくっていこうというような話をさせていただいたんですけれども、やはり中学生のほうを急ぐべきではないのかと、部活動なんかも中学校生活の中で非常に大きなウエイトを占めていると思います。特に中学校のほうを先に急ぐべきじゃないのかということで、まず中学校の再編のほうを行わせていただいたんですけれども、その際にはあまり小中一貫という話はしていなかったんですが、当初話をしていたときは、今の桃谷中学校区に関しても、小中一貫した教育をつくっていこうという計画を我々はつくっておったところでございます。

そういった中で、小中一貫校というところは、それぞれの校区に関してもちょっといろいろ考えていたところなんですけれども、まず田島中学校区に関しまして、当初我々のほうで案を示させていただいたときは、田島小学校に新しい学校をもっていってはどうかというような形を提案させていただいていたところですが、田島小学校になることによって、やはり通学が遠くなる地域の方もおられます。また、そういった中で、それであったら校区の真ん中にある田島中学校の場所に新しい小学校を一緒にもってきて小中一貫校という形にしてはどうかというご提案もいただいたところですが。

我々、考えていた、先ほど小中一貫した教育ということで、9年間でお子さんを見ていけるという教育関係をつくっていきたいというお話をさせていただきましたけれども、当初はなかなか小学校を中学校のところにもっていくことは、ちょっとしんどいんと違うのかなということで、田島小学校ということでご提案させていただいたところなんですけれども、いろいろ教育委員会さんのほうでも施設のあり方に関してご検討いただきまして、例えばプールを屋上にもっていきましょうという話も含めまして、いろいろ検討していただきまして、何とかできるよというお話もありまして、今現在田島中学校の場所を活用して小中一貫校を建設するというような形で案を今回つくらせていただいたところでございます。

それから、生野中学校区に関してです。生野中学校区は、義務教育学校という形になってございます。この義務教育学校というのは、本当に今まではなかったんですけれども、数年前に新しい学校の形ということで示されたもので、小中一貫校というのは厳密に申し上げますと、小学校と中学校は別ものの学校だという位置づけになっているんですけれども、小学校の6年間と中学校の3年間と、これまとめて1つの学校となるのが義務教育学校となってございます。

こちらのほうも地域の中でもお話をさせていただく中で、やはり中学校の部分も含めて、よりよい学校にしてほしいというお話もいただいていたところでございます。そういった中で、新しい学校の形態ということで、義務教育学校になりますと、例えば今小学校6年間、それから中学校3年間という形になってございますけれども、いろいろ教育の区切りということでも5・4制でありましたり、4・3・2制でありましたり、いろいろ柔軟に対応できるような部分もございます。そういったことから義務教育学校ということも考えられますよねというお話をさせていただきました、そういう形でいこうということでいろいろ議論をしていたという状況になってございます。ちょっと長々となりましたけど、以上でございます。

○金委員

どうぞ。

○船方委員

一応その2種類の学校ができるということで、ちょっと素人的に学力とかという面では差が出ないのかなという不安が少しあるんですけども、1つは施設一体型、ちょっと何か職人的な感じがして、そして義務教育のほうは本当に頭脳的といえますか、すごく教育に力を入れてやるというような感じに受け取れるので、そこから生野区内でも学力の差とかそういったものが出てこないのかなという不安がちょっとあるんですけども。

○金委員

事務局、お願いできますか。

○樋口教育委員会事務局総務部首席指導主事兼こども未来担当課長

ありがとうございます。私、教育委員会事務局総務部首席指導主事兼生野区役所こども未来担当課長の樋口と申します。よろしくお願ひいたします。教育内容を担当しております。

今ご質問のあった部分でありますけれども、確かに、義務教育学校にしましても、各小中一貫校にしましても、そのほかの小学校、中学校にいたしましても、それぞれこどもたちの実態も把握して、学習活動というか教育活動を行っております。差が出ない、それが出てくるかといいますと、これは絶対的に差は出てきますが、義務教育学校だからとか小中一貫校だから差が出てくるという話かという、それぞれ小学校も中学校もそうなんですけれども、再編するということは当然その教育効果というのを考えて再編していきますし、残っている学校については、残っている学校でそれぞれがそれぞれ工夫されているわけなんですけれども、公立の学校でありますので、小学校は小学校の学習指導要領、中学校もそうですね。学習指導要領ございますので、それにのっとって教育活動を行ってまいります。

義務教育学校におきましても、小学校、中学校全部貫いて9年間一貫してこどもを育てるという学校ではありますけれども、小学校の6年間に当たる部分を前期課程、中学校の3年間に当たる場を後期課程と位置づけまして、それぞれの学習指導要領にのっとってやるという部分には大きく逸脱したものではございません。ですので、差が出ないのかという、それは通常の小学校、中学校においても差が出たりしますが、ただ提供する教育の中身というものについて、この学校だから私学的に非常に学力が高まる学校になっていきますという部分においては、何とも言いにくい部分ですね。そういうふうな学校というのは、別に義務教育学校だからそういうふうになるとは限りませんし、とりわけ義務教育学校は大阪市初のものになっていきますので前例がございません。

先ほど、山崎のほうからも話がありましたけれども、義務教育学校におきまして、先ほどの内容で言えていなかったことを言いますと、小・中学校両方の免許を有している教員を配置するというのを基本にしておりますので、長い目で見るときにはそういう方が大半を占めてくる、出だしについてはその辺柔軟に見ていけるんですけども、確かに、それぞれの学校説明会、このような学校をつくっていきますよという話の中では、随分魅力に感じていただけるように、こちらも努力していき

いと思っておりますので、それを見られたら、何かこっち側の学校と違うと比べられて、こっちのほうがいいわとか感じられる部分は正直あるかもしれませんが、そのような内容を踏まえていただいてご判断いただければと思います。以上です。

#### ○金委員

今ご説明ありましたけれども、なかなか初めてのことなので想像のつかないところもたくさんあると思うんです。ほかに何かご質問とかありますか。

私、ちょっといいですか。何となくせっかくこの再編、今から学校を新しくつくるときに、特色ある、魅力ある学校をつくりたいという思いでやっぱりいろいろ義務教育学校をやってみようとか、一貫学校をやってみようとか、そうすることで何がいいのか模索、模索でしょうけども、この機を逃してはいけないということで、学力をつけたい、こどもたちが生き生きと学校へ通ってほしいという思いがあって試行的にやっているといっても間違いではないんでしょうかね。でないと、何で生野中学校これで田島中学校これって、説明がつかないと思うんですよ。いかがでしょう。

#### ○山口区長

そうですね、私も元校長ですので、実は各学校って、かなり今校長のマネジメントのもとに学校運営しなさいというふうに言われていまして、まず校長になって学校に行ったら、学校の課題って各学校で違う。外国の子が多い学校、私はそういう学校にいましたし、学力すごいしんどいなという学校もあれば、何か代々英語に強い校長先生とか、中学校とか連携ですっとやっているところがあったりとか、いろいろあるんです。

例えば、今生野南小学校って、すごい全国的にも評価されているんですけども、あそこは6～7年かけてずっと国語の研究と性・生教育をやってきて、成果が出てきたみたいな話があったりとか、まず、みんないい学校をつくりたい、この新しくする学校の課題って何だろうって、また4つの学校のカラーとか大事にしてきたものもあるので、実質やっぱりつくっていく、まだこれからつくっていくための一定の方向は必要です。その新しい学校をつくるんやったら、学習指導要領も本当に大きくかわる、今までだったら一定学力、暗記だとかトレーニングだとかして受験学力つけて、いい高校へ行って、いい大学へ行って、何か就職してそこでずっと過ごすというモデルが崩れた中で、新しい時代、先が読めない時代、生き抜くこどもを育てるとするのは文科省が今度つくった新学習指導要領で、それに合ったこどもたちを私たちもまたつくっていくために、取り組んでいます。例えば今桃谷中学校さんって、すごく英語を熱心にされていて、英語の先生を4小全部に派遣をして、できるだけ同じぐらいの英語の力で上に上がってきて力をつけたいという思いでやってはって。

そういった各学校で、もともとやっていた取組みも入れながら、やっぱり新しい学校をつくっていくときに、今までの枠ではできなかったようなことにチャレンジもしたいですし、そこであまりにも差が露骨に出るといえるのは、公教育としてやっぱりどうなんというの、中でもよく意見の言い合いみたいになるんですけども、

現場にいる先生たちの声とかこどもの実態みたいなことをしっかり見ながら、いい学校をつくりたいと思っていますので、今みたいなご意見とか、実際どういう学校になっていくのとか、こんな力が本当は要るのに、全然つけられていないやんとか、そんなことはまたどんどん言っていただいたら、またいいなと思っています。

一定、協議会とか準備会とか、そういった話し合いの中で、あまり教育内容については議論をしない。それはどっちかという教育委員会に預けるみたいな形で、私たちは随時こんな学校にしたいと思うんですけど、どうでしょうって諮るみたいな関係性でやってきています。今までほかの地域の再編もそんな感じ、そんなところですよ。

#### ○金委員

ということで、今、区長から説明がありましたように、皆さんの、やっぱり地域や保護者の意見によって子どもたちがどのようにいい教育を受けられるかという条件も大分進むと思うんです。ですから、ぜひ何かご質問とかご意見がありましたら、出していただきたいと思いますが。

#### ○大藤部会長

大藤です。よろしくお願いします。うちの子どもが行っていた中学校なんですけども、ほんの3～4年前まで行っていた子どもが教育実習とかでお世話になることがありまして、行かせてもらった途端に、帰ってきたら、私らあんな学校へ行きたかったと、あんな子どもが文化発表会にしろ何にしろ積極的に参加してくるという、あんな学校へ行きたかった、何がかわったんやろということをしつこい質問というよりも、そういう感想を私今述べていただいているんですけども、管理職の運営によって全く違う学校にかわっていくというのは、すごいなと今感じています。

学校の名前はあえて言いませんけれども、中間、期末がなくなったとか、中学校の先生が小学校のほうへ授業を出張しにいったりとかいうことで、小中連携もとれているようですし、やる気のある校長の一言でそれだけかわる。だから、ほかの学校ももっとかわれるチャンスがあるはずなので、ぜひともそれを推進していただければ、私は非常にうれしいです。

やっぱり小学校、中学校、学力しっかり上げてもらって、しっかり高校へ行ってもらって、ブラックな会社じゃなくて、クリーンな会社に就職してもらって、また生野に住んでもらえるようなそういう生野区になってほしいと思っていますので、どうぞ皆さん、いろいろご意見出していただいて、お話いただけたらいいかなと思うんです。よろしくお願いします。

#### ○金委員

いかがでしょうか。先ほど出ました、次世代の学校づくりだけじゃなくて、子育てに楽しいまちづくりについてでもよろしいですし、特に跡地活用なんか、割と地域の要望などはしっかりと反映される場面が大きいと思うんです。その辺でも結構ですので、いかがでしょうか。

#### ○大藤部会長

ちょっと1つ、すみません、跡地活用の参考例とかいうのは、何かございますでしょうか。

○杉本まちづくり推進担当課長

まちづくり推進担当課長の杉本です。跡地活用の事例でございます。こちらの本日の資料には入っておりませんが、例えば文部科学省のみんなの廃校プロジェクトというサイトがあるんですけど、そちらには全国の廃校事例というのは載っております。いろいろ地方なり大都市なりの廃校事例というのは載っておりますので、ご参照いただければと思います。

○山口区長

いくつか見てきましたので、ちょっと補足をさせていただきます。先日は京都のマンガミュージアムですかね、行ってきました。かなり古い校舎だったんですけど、一番印象的だったのが、その学校の思い出の部屋が1つあったんですね。そこに入ると歴代の校長先生の写真、学校の歴史、それからビデオがずっと校歌とともに流れていて、これはやっぱり卒業された方が訪れる、大事にしている部屋だなということがわかりました。

漫画がいっぱいありまして、うちの娘はこの近くに住みたいと言っていたんですけど、地域のこどもは年間1,200円で通い放題みたいで、大人もこどももみんな学校の中でだらだらとずっと漫画を読んでいる、居場所になっているんだなということを感じました。時々イベントなんかもしていたようです。

これは、精華芸術大学というところが恐らく買ったか借りたか、ちょっとその辺また調べようと思っているんですけども、何らかの形で使っていて、もう一つ、パネルが置いてあったんですけども、地域の夏祭り、運動会、それから当然避難所としても活用していますということが書かれておりました。

東京でもいくつか学校跡地を見てきたんですけども、ものづくり学校というふうになっていて、教室がパン屋さんになっているところとか、保健室でカフェやっていたりとか、いろいろそんな事例もありました。介護施設になっているところもあれば、保育園やこどもが集まるようなそういう児童館的なところがあり、事例は本当に今、全国年間500校単位ぐらいで、一時期再編が進んでおって、それが閉校した学校がたくさん出てきましたので、文科省も力を入れて、いろんな事例を紹介しているというところです。

○金委員

ありがとうございます。何かよろしいでしょうか。新井会長、お願いします。

○新井PTA協議会会長

PTA協議会の新井と申します。跡地活用のことなんですけれども、今中学校のほうでもいろいろな国のこどもたちが通ってきているので、日本語が話せないこどもたちがいるんですね。そのこどもたちが一旦中学校に来て、すぐにその言葉を覚える学校に通いにいくんですけど、結構遠いところまでこどもたち通っているんですね。それがもしその跡地が活用できれば、そこでこどもたちに言葉を教える学校みたいなのところがあれば、本当に安全の面からしても、いろんなこどもたちが助かるんじゃないかと思います。

○金委員

ありがとうございます。そうですね、やっぱり言葉がわからないということで、

学校などで本当に困っているこどもたちが最近多くなってきていますので、何とか手当を地域で、まちぐるみでできたらいいなと思うんですが、そういう跡地活用の仕方とか、ほかにも何かございませんでしょうか。

私のほうから1つ質問させていただいていいですか。私がいつも思うのは、小学校の教員をずっとしていましたので、大昔子育てもしていましたので、やっぱり幼児教育ってすごく大事だなと。ある意味小中の課題は、幼児教育のときに積み重ねてしまった部分、残してしまっただけの部分と申しますかね、届かなかった部分が大いのかと思うんですが、その幼児教育のほうで何か、絵本の読み聞かせ等もありましたけど、子育てにおいて、ちょっと未来像、区役所のほうでどんなふうにおられるか。

○山戸地域福祉推進担当課長兼政策推進担当課長

地域福祉推進担当課長の山戸です。生野区で絵本の読み聞かせが進むように、来年度につきましては、子育て支援施設の方々と協力いたしまして、絵本100選、100選になるのか50選になるのか、まだ確定はしておりませんが、絵本100選、お勧めの絵本をご紹介いたしまして、それを読んだときに、こどもがどのような表情をしたのかとか、そういうのを記録するような本、日記を作成しましてお配りしたいと思っております。

その中には、子育て支援施設がどのあたりにあるのかというご紹介もいたしまして、できるだけ子育て支援施設にも行って、こどもを遊ばせていただいて、子育ての孤立化が少なくなるように進めてまいりたいと考えております。

○金委員

ありがとうございます。どうぞ、区長、お願いします。

○山口区長

ちょっと補足していいですか。すみません、幼児教育、実はずっと教育委員会のほうで幼児教育と小学校の連携についてというのは、かなり研究をして、冊子みたいなものが配られているんですけども、やっぱり保護者の方に、親となる前の心構え的なことと親が、家庭がどういうという部分と、正直、私しんどい学校の校長をしていたからかもしれないんですけども、親だけで育てるの、かなり厳しい時代になったなとは思っています。共働きの方が増えて、かつ一人親も増えていたりもしますし、何か乳幼児にどうかかわって、特に幼児にどうかかわっていくかというところで、保育園にずっといてるので、その保育園の中でのいろんな質も上げていかなあかんけど、空前の保育士不足でありまして、生野はまだ待機児童そんなにいないんですけども、ぜひ身近に保育士免許をお持ちの方がいたらお願いします。大阪市も、全国的に足りていないんですけど、そういった課題もあるよなというのが、正直何か今これが答えというところが見つからない。

ただ、一個だけ共有できるのが、早生まれ、遅生まれとか、とにかく入学前、1年生になる前の家庭でついている差って、小学校2年生ぐらいまでに適切な支援があると埋まるというデータがあります。最近『教育格差』という松岡亮二さんの本がよく売れているんですけど、それを見て、学校側の人間として思ったのは、ああ、やっぱり2年生の担任大事だなと思ったんですね。1年生の担任って、大体ピ

シツとした人を入れて、2年生、正直なところ若手教員増え過ぎて、またその小さい学校いっぱいあるから、なかなかこの2年生の担任にええ先生入れられへんのと、保護者も若干2年生になってきたら目が離れる。1年のうちは気にしているいろいろ世話やくけど、学校もなれてきたし、こどもらからしたら、1年のときは割と緊張して、ワクワクドキドキもあるけど、緊張して過ごしていたのが、2年になると若干態度が大きくなってくるというか、はじけてくるんですよ。

そのとき、先生にやっぱり力がないと、はじけ放題みたいになってしまって、そこで九九であったりとか掛け算に入ったりとか、学習内容もかなり難しくなっているんだけど、低学年の学習支援とか、地域でもいろいろこども食堂とかしていただいて、その辺感じていらっしゃったりとか、低学年大事かもとか、もちろん幼児も大事なんですけど、出会う機会が少なくなっているの、教えてほしいです。

逆に池原委員に聞きたいですが、こども食堂されている中で、ああ、こどもたちにもうちちょっとこういう力が要るん違うかとか、こんな声かけしたら何かええ感じやったとか、ぜひ教えていただけたらなと、すみません、私からふって、お願いします。

#### ○池原委員

池原と申します。こども食堂を始めたきっかけは、こどもたちを元気にするために朝御飯を食べてもらいたい。それで舍利寺小学校の生徒のみ実施しています。とにかくすごく仲が良くって、みんな本当にいい子たち、礼儀からまず教えました。くつを脱いで並べて手を洗い、そしてみんなにちゃんとご挨拶もできて、食事に関しては、プレートを持って、バイキング形式で、食物は絶対に残さない、残してあるのにまたおかわりをするのはダメ、プレートの中が空っぽになったらおかわりに行きなさいという感じで進めています。校長先生も一緒に参加してくれています。学校の中ですごく元気になっていますということ、こども食堂、月に2回しかないのですが、その2回がすごく力になっているのかなと思います。それは私たちの自画自賛でしょうかね。でも、それを楽しみにしていて、遅刻も減ったりというのは聞いております。

だから、このまま続けられるものであれば、頑張っ続けていきたいかなと思っているのですが、統廃合のことでいつまで続けられるのかなというのも不安で、できる範囲で頑張っってこどもたちに元気を与えてあげたいなと思っています。

#### ○山口区長

ありがとうございます。

#### ○金委員

ありがとうございます。やっぱり月2回でも自分がいれる場所、自分が元気になる場所があると、こどもたちはそこから活力も伸ばしていけるので、すごく大事ななと感じましたですね。ほかに何かご意見ございますでしょうか。

#### ○大藤部会長

今回質問シートに質問させていただいたんですけれども、中学生が高校生となって通学した後の状況について、特に中退者が出た場合に、出身校への連絡等はあるんでしょうかという。

たまたま去年入った居酒屋に娘の同級生がバイトしてしまっていて、聞くと学校中退したと。中退した後のフォローというのは、親以外に何かあるのかなとかいうことがすごく気になって、今回この質問をさせていただいたんですけども、皆さん周りで中退された高校生とかいうのがいてはると思うんですけども、どういうふうになってはるかという、多分アルバイト、すぐアルバイトするのが精いっぱい、その後の例えば復学とか、そういうことのフォローというのは、全くそういう情報さえも知らないんじゃないのかなということが気になって、ご質問させていただいたんですけども、いかがでしょうか。

○山崎地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長

参考資料2ということで回答のほうも書かせていただいております。こちらのほうは、教育委員会事務局さんのほうに確認させていただいて、回答を入れさせていただいております。それぞれ高校での取組みということ、それから中学校の取組みということで、高校のほうに関しましては、公立、それから私立、それぞれあります。公立の中でも大阪府立、大阪市立といろいろありますけれども、今回回答を確認させていただいて、大阪市立の学校を所管している教育委員会事務局のほうに確認させていただいたということになってございます。

特に中退者が出た場合に出身校への連絡等があるのでしょうかという点に関しましては、常日ごろから中高で連携しながら進めているというところがございますけれども、個々の事情を踏まえた上で、出身中学校に連絡するというところになっているとお聞きしているところでございます。

それから、中学校に対しましてですけども、いろいろ書かせていただいております。特に3年生の際には進路指導に合わせまして、お子さんたちが夢を持って進学ということで夢と希望を持って新しい学校に入学できるような形でいろいろ取組みを行っているという状況になっているという回答をお聞きしておりまして、ここに記載させていただいているところでございます。

○山口区長

区として、今ちょっと進んでいるところでして、実は私2年ぐらい高校中退対策ワーキングのリーダーをずっとやっています。これって、みんな薄々感じていた問題、高校中退って結構いてるよね、その後どうなるんやろと言いながら、中退した瞬間に高校としては義務教育の学校じゃないし、かつ教育委員会の所管ではなくなる。

大阪にあるコネクションズおおさかという若者自立支援のための結構寄り添い型のすごくいい施策があるんです。フォローで今持ってきてもらったんですけども、いろんな支援メニューはいっぱいあるんですけど、届いていないということがそのワーキングの中で話題になって、このチラシを桃谷にある大阪コンピューター高等専修学校の生徒さんたちと話し合いながらつくりました。こどもたちが自分たちでキャッチコピーも考えてきましたし、裏面にいろんな相談窓口書いてあります。あえて細かい連絡先とかは一切書いていないのは、検索したら見つかるとその子ら、高校生らが言うので、表のほうにQRコードもつけてあって、そのQRコードから飛ぶといろんな支援が、ここに載っているような支援が全てリンクも載っていると

ころです。

やっとこの間、市長も入っている「こどもの貧困対策推進本部会議」というところでこういった報告をワーキングでこんなこといろいろ考えましたという報告をして、市立高校の子で中退したら、本人の同意書とれたときだけなんですけど、住んでいる区に情報が来る、そこからまた支援をするというような仕組みをつくったんです。大阪市立高校に通っている大阪市内居住者は、何か何割ぐらいやったか、4割ぐらいやったかなと思うんですけど、実は府下にいっぱいいる、要は大阪府全体にやらないと、あと府立高校と私立と一緒にやらんと、全部はキャッチできへんよねということで、市長も府市連携ちゃんとやるようにというのは言うていましたので、やっと2年かけてこういったものを形にできることからやりながら、次は大きくいきたい。

ぜひ、地域の方皆さんにお願いしたいのは、やっぱり気にかけてやってほしいのと、こういった情報あるでとか、区役所の「くらしの相談窓口いくの」とか行ったらいいよとか、もう一回進学するんやったら桃谷高校ってすばらしい定時制、通信制がありますので、自分たちでも桃谷高校の校長先生、昨日言うてはったんですが、私たちは学び直し、やり直しの学校ですと。セーフティネットですと。通信制2,000人いるそうです。何歳からでも入れますということで、そういったすばらしい学校、役所の隣にありますので、ぜひちょっと声かけて気にかけて、まだまだ全然人生100年時代やからもう一回勉強しとか、資格とりとか、もちろん今の仕事に満足して幸せやったらそれでいいんやけど、気にかけてもらえるとありがたいなと思います。

○大藤部会長

ありがとうございます。やっぱりね、これが伝わっていないということが一番大事なんと違うかなと、もっと伝わらなあかんのやろという、どうやって発信するかですよね。

○山口区長

そうですね。中学校と高校には配らせてもらったりとか、あちこちにはまいているんですけども、頑張ります。

○大藤部会長

よろしくお願いします。

○金委員

それでは、ほかに今日の議事の中でご質問、ご意見、全体的に見渡して何かないでしょうか。それでは、田中委員さん。

○田中委員

すみません、これ聞いた話なので、ちょっとご紹介したいなと思うんですけども、魅力的な教育環境づくりというのをやっぱりしていきたいなと思っていたときに、平野区になるんですけども、加美東小学校ってご存じですかね。もう皆さんよく知っていると思います。図書館の改修プロジェクトというのが始まって、加美東小学校は、その図書館を改装する前は非常に荒れていたと伺っています。それが図書館を改装するという事になって、設計者とプロの方は、無償で協力して、材

料費のみで図書館を改修したということです。

また、大工さんは用務員さんがやって、図書は読ませたい推薦図書じゃなくて、こどもが読みたいと思うような本を並べたらしいです。そうしたら、どんどん荒れていた小学校がだんだんとみんながワイワイ寄ってきて、本を読むようになってきたという話を伺って、ぜひ見学にいきたいなというふうに思いました。

これだというふうに思ったのは、地域の人がある学校を何とかこどもたちのために手を加えようとする、地域の人があるんですね。その姿をこどもたちも見ていたん違うかなと思って、その姿をやっぱりこれからも見せていきたいなというふうに思っていて、そういうこどものころのとか、こどもの時期の親のあり方、忙しくて、仕事も忙しくて、夜も遅くて、夜中でもいろいろ仕事をやっているという姿だけじゃなくて、地域のために何か少しでもこどもたちのためにやっているという姿、それがしかもそのお金をあまりかけずにその図書館ができて、その協力いただいた図書も、みんな地元の人とかが寄贈して、地元でつくった図書館というのができ上がったという話を聞いております。

ということなので、生野区の場合も、何かこう、そういう場を新しく大きな建物、きれいな建物をつくるというのではなくて、大人が知恵を出し合いながらちょっとした改修をしていく姿をこどもも一緒に見ながらできたらいいかなと感じたところです。以上です。

#### ○金委員

貴重なご意見ありがとうございます。それではほかに何かございませんでしょうか。今田中委員さんがおっしゃられたように、小中一貫校にしても義務教育学校にしても、やっぱりこどもたちが自分たちの学校だ、自分たちで何とかしたいとか、保護者がこどものために何かするんだという、そういう思いをたくさんくみ取った学校になっていかないと、形だけにならざるを得ないかなという気がしているんです。やっぱり自分たちでこの学校をつくるんやと。

だから、こどもの意見をたくさん聞けるような場を今後つくっていただけたらなというふうに、こども未来部会ですから、こどもたちが未来をつくると、私たちがこどもたちの未来をつくるのじゃなくて、こどもたち自身が自分たちの未来をつくるんだという、そういう学校をつくっていただきたいなと私なんかはつくづく思うんですね。

それはもう、やっぱり何でもそうですね、当事者が自分の思いを出せる場をつくるということが、何よりも活力につながるんじゃないかなという気がします。

議事以外でも結構です。せっかくこういう場ですので、区役所とか地域とか、いろんなところにちょっとこんな意見を言いたいという方がありましたら、ぜひ出していただきたいと思います。時間のほうもそんなにあとたくさんはありませんので、何かないでしょうか。新井会長さん、お願いします。

#### ○新井PTA協議会会長

私は「生きるチカラを育む絵本プロジェクト」というのがあるんですけども、絵本サポーターをさせていただいて、区役所のほうで有名な作家さんが来られる大きなイベントに参加させていただいたときに、読み聞かせのほう以外に来られ

る親御さんとかも見せていただいている、結構お母さんだけじゃなくてお父さんがこどもを連れてきて絵本を選ばせたりとか、そういうすごい生野区の方って、結構お父さんが積極的に子育てに力を入れているんだなというところがちょっと見えたりして、うれしくなります。

その中に参加されるお母さんでやっぱり小さいこどもを抱えておなかが大きくて、イヤイヤ期の子を抱いてとか、そういうすごい大変な思いをしているお母さんのちょっと手助けとかができたりしてそういうことがたくさん見えたりするのでどんどん推進していただきたなと思います。

○金委員

ありがとうございました。貴重なご意見です。何か役所のほうから。どうぞ、山崎委員さん。

○山崎委員

東小路から来ました山崎です。今回初めてこどもの未来部会ということで、この区政会議に参加させていただいたんですけれども、いろいろ見る、こういうプロジェクト、イベント、すごくたくさんされているんだなと。私PTA、6年ほどさせていただいて、生野区のPTAのほうにも少し参加させていただいていました。ただ、こういう受け取る側の問題もあるかもしれませんけれども、こういういろんなイベント、いろんな事業、正直私全然知りません。今日初めて聞いたものがたくさんありました。

すごく立派なことされているのに、言いましたけど、受け取る側のアンテナももちろん大きいとは思いますが、実際じゃこういうことを私の周りでも話、一回でも挙がったかなと、ほとんど聞いたことがないので、せっかくいいことされているのに、もうちょっと本当に届ける努力というのを、これ内容はもちろん大事なんですけれども、届ける努力というのがもうちょっと要るんじゃないかなと。せっかくいいね、こういうパンフレットがあったり、いろいろなところがある中で、届けてほしいというのが正直なところですよ。

これから私もここに初めて参加させていただいて、これからやらせていただく中で、地元に戻ればこういうのがあるよというのは、少なくとも発信できるとは思いますが、ただ、私1人の力では伝わりは少ないと思いますので、もうちょっと全体で伝える何かを考えていけたらなと思います。以上です。

○金委員

本当に貴重なご意見ありがとうございました。私ちょっとお聞きしたら、新しい委員さんが多い、今回初めて聞かれる話とかたくさんあったと思うんです。質問もちょっとしにくかったかなと、進行が下手くそなために、皆さんご意見を引き出せなかったのは、大変残念だったんですが、何かほかにせっかくの機会ですので、こうして初めての感想でも結構ですので、何か出していただけたら、また次回も続きますので、いい機会になるかなと思います。いかがでしょう、初めての方でも結構です、ご感想でも、何か一言でもお願いします。

○榎木委員

巽の榎木と申します。いつもお世話になっています。私も区政会議には初めて参

加させていただいているんですけども、正直言いまして先ほど山崎委員言われたように全くわかりません、横で座らせていただいているんですけども、今社協のほうにちょっと私携わっていまして、一番関心なのは、小学校のほうでこども見守り隊ありますよね。今度こういうふうな再編された場合、こども見守り隊はどなくなるんですかね。それちょっと申しわけないですけど、いきなりこんな話して申しわけないんですけども、今まで一生懸命こどもたちにやっていた人が、当然再編になるとそれぞれの地域の方がやる、やらんという問題が出てきているんじゃないかと思うんですけども。

特に、こどもたちの朝見たときに思うんですけど、やっぱり親御さんが連れて行くのは一番ベターなんですけども、やっぱりこどもによっては、やっぱり悪い子もいまして、我々を見て、おっさんとか言われてね、いつも怒られたりしていますんですけども、ただ小学校へ行ったときには、また真面目になってもね、実際に途中でやっぱり口の悪い子とか、そういう機会を見て、俺おりるといふ人もいたんですよ。そんな地域もありますのでね、やはりその中で、ちょっと注意することも大事だというのは、私は今反省していますので、その辺がちょっと今度再編になれば、どうなるのか、ちょっと教えていただきたいなど。また話あったかもわかりませんが、済みません、よろしくお願いします。

○大川教育委員会事務局総務部学校適正配置担当課長兼地域活性化担当課長

地域活性化担当課長の大川です。再編によって見守り隊どうなるのかということで、見守り隊につきましては、引き続きご協力をお願いする形で考えています。

ただ、その見守り隊だけじゃなくて、当然再編によって通学路遠くなってくる児童もたくさん出てきますので、その遠くなることによって新しい道を通らないといけない、そういったところの安全対策も含めて、最初に山崎から説明がございました協議会の中で、新しい通学路の安全対策というのをご意見を頂戴しながら対策を検討すると。その中で、今まで見守り隊に協力いただいているところ、そういったところをまた協力をお願いしながらという形で取組みを進めているところです。

○金委員

ありがとうございます。時間のほうも大分迫ってきましたが、最後に一言ないでしょうか。それでは、特にないようですので、これをもって意見交換を終了させていただいてよろしいでしょうか。

どうもお疲れさまでした。ありがとうございます。そしたら部会長のほうにマイクを戻します。

○大藤部会長

金委員、ありがとうございます。事務局から連絡事項がありましたら、お願いします。

○橋本企画総務課長

委員の皆様、お疲れさまでございました。本日いただきました貴重なご意見につきましては、3月に開催をいたします全体会で部会としてご報告をしていただくことで他の部会の委員の皆様とも共有をしていただきたいと考えております。報告内容につきましては、事務局でひとまず整理をさせていただきます。部会長、学識

委員と調整をさせていただきますので、よろしくお願ひいたします。事務局からの報告は以上でございます。

○大藤部会長

ありがとうございました。それでは、本日の会議を踏まえまして、山口区長から一言お願ひします。

○山口区長

いろんなご意見ありがとうございました。届かないという点に関しましては、ずっと広報紙をいろいろリニューアルしたり、SNSを使ってみたり、いろいろやっているんですが、ますますもっと頑張りますので、よろしくお願ひいたします。

また、学校再編のこと、そしてこの広がる、遠くなる通学路に関しまして、まずはそれぞれ保護者の視点、また見守り隊の方が今まで気にされている場所とかを一緒に聞きながら確認もし、またやっぱりあまり遠くなる場所に関しては、そこは行政で責任をもってやらないかん部分もあると思っていますので、ボランティアの方にお願ひして何とかしますというのは、それは答えではないとちょっと思っているところもありまして、教育委員会ですることと、区ですることと、また地域の方たちが思いを持ってこれはやってやりたいねんということがあれば、一緒にやるというようなところで、ほかの学校、浪速区に私住んでいまして、浪速区から自転車で通ってくる時に、たまに再編した学校の元小学校、恵美小学校というところから、日本橋小中一貫まで、保護者と多分地域のベストを着た見守り隊の方なのかと思うんですが、集団登校して25号線を安全に渡るというのを時々見かけるんですけども、そういった姿とかを見ていますと、それぞれ地域ごとに話し合いもしながら、あと何年間かある中で、本当に安心できる形を私たちはつくっていかねばならないと強く思っておりますので、そういった話し合いの場とか、実際歩いてチェックする機会がありますので、ぜひたくさんの方にそこはかかわっていただいて、あそこは危ないで、ここも危ないでと、また行政ですること、できへんこともありながら精いっぱいやりたいと思っています。

あとやっぱり寂しい、学校なくなったら寂しいなというところで、今地域ですべていただいている活動とかがどうやってそのこどもたちを、何というか、地域の子として、小さいころから、ほんまに赤ちゃんのときからずっと気にかけて、小学校に行くと、中学校に行くと、ちょっと大きくなったと言いながら、やっぱり高校生になって大丈夫か、活躍して、やっぱり二十歳のときに成人してみんなでお祝ひしてあげてというところで、そういう長い、何か続いていくような形というのは、行政としてできない部分でもあって、地域の方々がそれぞれ思いを持って小さいころからかまって、声かけてやっていただけたところに、私たちがバックアップできることはしていきたい。

そこで学校跡地というものがいい形で生かされたらなと思ひていまして、これは私の個人的な思ひで、全部の小学校跡地に図書室を残してくれという話はずっとしています。いきいきから集団下校して送ってきて、できればそこで保護者の方と受け渡したり、中学校の子が勉強しに来たり、また地域の方がのんびり過ごしていたり、何か地域図書室にできへんかなという話はずっとしていまして、そういったと

ころにもまたご意見いただいて、実際じゃみんなで本棚つくろうぜとか、何かこどもたちのためにこういうのをつくってあげようとか、名前考えようとか、こどもたちもまたその地域にもう一度かかわり直すような機会にできないかなと思っています。

さまざまご意見いただきました。大変生野区としては、いろんな形で注目もされていますし、私がいろいろ至らなかった部分もたくさんあって、地域の中でしんどい宿題みたいな形で抱えている学校再編の問題であったり、いろいろあるとは思いますが、やっぱりこの少子化の中で、とにかくこども減っている中で、1人も取りこぼしたくないという思いだけは強く持って、職員一同やっておりますので、またこういった機会以外でも、今日言えへんかったんやけどという形で意見言っていたいただければありがたく思います。今日は本当にありがとうございました。

○大藤部会長

ありがとうございました。それでは、区政会議は生野区の将来について、区民同士が率直に情報交換をしたり、意見を語り合える場です。また、3月には第3回全体会議の開催も予定されておりますので、今後も活発なご意見をよろしく願います。

それでは、これにて本日のこどもの未来部会を終了します。皆様、お疲れさまでした。